

足利赤十字病院神経精神科を受診された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	外傷性頸部症候群(むち打ち)が認知機能に影響を与える可能性(後視的研究)
当院の研究責任者	船山道隆 (神経精神科)
他の研究機関および各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	外傷性頸部症候群(むち打ち)が認知機能に影響するかという点にはさまざまな議論があります。認知機能には影響しないという見解が大半だが、Beekmans ら(2017)は軽度の脳外傷患者群と同様に認知機能が低下していると報告しています。実際の臨床現場では、時に記憶力の低下などを訴える外傷性頸部症候群の患者がいらっしゃいます。今回、当院高次脳機能外来に通院する外傷性頸部症候群の患者群の認知機能を検討することで、この点を明らかにすることを考えています。
調査データの対象と該当期間	2011年7月から2024年5月までの間に足利赤十字病院高次脳機能外来に通院した外傷性頸部症候群とびまん性軸索損傷の患者様
研究の方法	通常の高次脳機能外来の臨床で施行している以下の認知機能等を後方向視的に比較します。具体的には、電子カルテから、年齢、性別、発症からの経過年数、Wechsler成人知能検査の下位項目(言語理解、知覚統合、ワーキングメモリ、処理速度)、記憶(リバーミード行動記憶)、遂行機能(Wisconsin card sorting test)、意欲(標準意欲検査法の面接による意欲評価スケール)、行動障害(BADS 遂行機能障害質問票の行動に関する8項目)の結果を抽出します。Mann-Whitney U test および Fisher 直接比較法を用いて、これらの結果を2つの疾患で比較します。
個人情報の取り扱い	利用する情報から患者様を直接特定できる個人情報は削除しています。また研究成果は学会発表や論文を予定していますが、その際も患者様を直接特定できない形式となっています。データ自体も学術誌での報告後に破棄します。
本研究の資金、利益相反	ありません。
お問い合わせ先	電話 0284-21-0121 担当者：神経精神科 船山道隆